

単元名 詩を味わおう

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 詩全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。
 (2) 詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、それを共有することで感じ方の違いに気付くことができる。
 (3) 詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、それを述べようとする。

標準的な展開例

04010201_001

【教材名】忘れもの／ぼくは川 (上 P.114～P.117)

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
<p>1 二つの詩を音読し、詩の表現の工夫について話し合う。 ★様子を想像しながら詩を読もう。 ○「忘れもの」「ぼくは川」を音読する。</p> <p>○「忘れもの」の表現の工夫を見付ける。 ・倒置法 ・呼びかけ ・擬人法 ・体言止め</p> <p>○「ぼくは川」の表現の工夫を見付ける。 ・リズム ・川の躍動感</p> <p>○場面の様子や人の気持ちを想像しながら音読する。</p> <p>2 それぞれの詩の「ぼく」はどんな思いをもっているかを考える。 ★「ぼく」の思いについて考えよう。 ○「ぼく」の思いがどのような言葉で表現されているかに着目し、考えたことを伝え合う。</p>	<p>・教師の後に続いて読んだり、児童同士で交代して読んだりして、さまざまな形態で繰り返し音読させる。</p> <p>・3年生で学習した「連」を思い出させる。第1連の倒置法、第3連の呼びかけや擬人法、第4連の体言止めなど、表現技法について押さえる。</p> <p>・リズムのよさや、動詞で表現された川の躍動感について押さえる。 【評】詩を読んで考えたことを伝え合う活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。 【評】詩の内容を想像しながら音読する活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <p>・詩にはいろいろな感じ方や見方があり、一人一人違うことに気付かせる。 【評】詩を読んで考えたことを共有する活動を通して、感じ方に違いがあることに気付く「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】